

どこが難しい？ 学力下位層を伸ばす授業づくり

冒頭のインタビューで大江校長が指摘するように、学力下位層の生徒が分かる授業をいかに実現するかは、新学習指導要領が掲げる「確かな学力」を定着させる上での鍵となる。全面実現に向けた課題と解決のための手立てを、編集部に寄せられた先生方のご意見、事例校の取り組みから考えたい。

課題

生徒の状況

学習意欲が低い

- ◎授業でつまずいているというよりは、意欲でつまずいている生徒が多いと感じる。新課程により学習内容が増えれば、格差はますます広がると思う
- ◎無気力型の学力不振生徒が多くなっているような気がする。単に与える量を増やすだけでは、内容が能力を超えてしまうのではないかと心配だ
- ◎自己肯定感のある子どもは学ぶ意欲も高いが、学力下位層の生徒の多くはそれ以前に自己肯定感の部分でつまずいている

授業内容を消化できない

- ◎現状の学習内容でも消化しきれない生徒が多い。「やりきれなかった練習問題は宿題」というわけにもいかない
- ◎小学校時代からの積み残しがあるため、どうしても一斉指導の授業の中ではついてこれない

教師の状況

教師ごとに指導方針が違う

- ◎授業中に生徒が寝ていても注意したり・しなかったりと、教師によって指導にばらつきがある
- ◎授業で分からないところがあっても、なかなか言い出せない生徒が多い。教師によってはつまずきに気づかないまま授業を進めてしまうことがある
- ◎学校として統一した授業方針がない。下位層への対応は、放課後補習や個別指導など、授業外の時間で主に行っている

授業研究の時間が取れない

- ◎移行措置が始まって、既に授業時数増を見越した教育課程を組んでいる。職員会議や校内研修の時間の確保がますます難しくなっている
- ◎講師を招いて話を聞く機会はあるが、互いの授業を見合うような実効性の高い取り組みが出来ていない

学力下位層が伸びる授業づくり

解決の手立て

個を見取る指導の徹底

「授業記録」「座席表」を
活用した個の見取り

横須賀市立池上中学校 ▶ P.14

大学教授による
個を見取る指導力の強化

大阪市立花乃井中学校 ▶ P.20

授業スタイルの明文化

「おおたけ授業スタイル」
「5つの共通実践」

大竹市立大竹中学校 ▶ P.8

「授業評価項目」を意識した
授業づくり

大阪市立花乃井中学校 ▶ P.20

60分授業を前提とした
授業モデルの設計

由利本荘市立大内中学校 ▶ P.26

教え合い、学び合う場面の導入

中心発問をグループ・ペアで
考えさせる

大竹市立大竹中学校 ▶ P.8

必ずグループで考える場面を
授業に導入

横須賀市立池上中学校 ▶ P.14

比較・練り合いで生徒の思考を
高める3段階のステップ

由利本荘市立大内中学校 ▶ P.26

授業研究の活性化

ワークショップ型の
校内研修を設定

大竹市立大竹中学校 ▶ P.8

行事の精選、会議の効率化で
月2回ペースの授業研究

横須賀市立池上中学校 ▶ P.14

普段から互いの授業を見合う
学校文化の醸成

大阪市立花乃井中学校 ▶ P.20